

続:おりじなる & more

2016年10月09日

前回の記事、振り返ってみたら、以前にも同じこと書いてました。

→ [再：トータルに見て充実しているマカーの日常、的なね〜](#)

悪く言えばワンパターン、良く言えばスジが通っている（笑）

前々回の演劇の記事も関係ありますね。



前回は一種類しかアップしませんでした、こんなことになってるんです。実はまだまだ到着予定
です。

帽子屋さんでもやるか（笑）

ユニフォーム？

強制ではないにしろ、ナリーズではユニフォームと呼べるようなグッズは結構作ってきました。T
シャツ、ブルゾン、ポロシャツ、などですね。以前在籍していた会員の厚意で、サンバイザーが配
られたこともあります。

立ち上げ当初のほうが熱く、年を追うごとに冷めていくのは、おそらくどのクラブでも変わらない
ことだろうと思いますが、新規会員が増えると話は違ってきます。ここ数年は大人しかったグッ
ズ熱も再燃。結成10周年ということもあって、今年はブルゾンを作り直しました。



また、会則で謳いながらも放置して来た月例会優勝10回毎の記念品も作りまして、全ての記録を遡り、対象者全員に贈呈しました（貧乏クラブゆえ、年会費免除の特別会員には贈呈してません）。



ナリーズ月例会優勝
10 回到達記念

伊藤 泡舟



ナリーズ月例会優勝
20 回到達記念

綿貫 正義

<http://naries1089.wixsite.com/naries/winnerlist>

[te.com/naries/winnerlist](http://naries1089.wixsite.com/naries/winnerlist)

このネームプレートは今や、一部の会員から羨望のアイテムですね。お金を出しても買えないワケですから当然ですが、ネームプレートってのが刺さるようです。ブルゾンにも刺繍でネームは入ってるんですが、それとは意味が違うんでしょうネ。

会長としては、希望者が居るなら作れば良いんじゃない？なんて気楽に構えてましたが、それではダメだ、と（笑）。誰もが持てないからこそ価値があり、良く似たモノを作るのはイヤ！という声も、（10回未達の会員から）あったワケです。

そこで折衷案。

「ロゴデータは公開するんで好きに下さいよ（笑）」

会としてアクション起こせば問題だとしても、個人がやるぶんには誰にも止める権利ナイでしょ？という。ブルゾンと同じ年度に、あんまり色々と手を広げてもなあという気分も作用しました。ツルむのが嫌いなメンバーも居ると思いますしね。

え？ツルむの嫌いでありながら、仕事でもないのに組織に属するのってオカシくない？

あやうい「個」

実は江成もツルむのは嫌いでした。子供の頃。集団生活大キライ。なので、毎週末一人で釣り糸を垂れてました。地元の野球チームの勧誘から逃げられないと思ったこともあります。ユニフォームを買う寸前で逃げ切った記憶があります。でもその後、中学で生徒会長になって、体制側の味を

知りました。所謂「デビュー」な感覚ですね。けっして人気者ではなかったんですが、対立候補の評判も良くなかったんでしょう（失礼スママセン）。トランプとヒラリーどっち？みたいなもんで、良い方ではなくマシな方を選択する選挙だったんだと思います。それでもその後、自分史上最高のモチ期を迎えました（笑）。大衆は権力に弱い。中学生に何が出来たんだって話ですけどね。立候補の動機は学校に対する不満でしたが、本当は、集団の中での自分のポジションへの不満だった筈です。

「官軍」となって思ったのは、ホンモノの一匹狼なんてのは多くなくて、弱者の強がりが大半なのかも、ってことでした。自分を正当化するための詭弁ってことです。チームワークとか興味なかった自分が、率先して旗を振る。大嫌いだっただ体育祭で、「みんなで力を合わせてなんたら〜」ってセリフに酔うんですよ？我ながら呆れました。

世界史を持ち出すまでもなく、良い時代は長くは続きませんから、今日までの人生の中で、少数派に身を置いたことも、多数派に身を置いたこともあります。交互でしたね。多数派の中でも、中枢に居たのか居なかったのかって差は大きくて、一度頂点を知った者は、「こんなポジションでは満足していないが、不満にも感じていないフリ」をしたりします。かつての中国みたく、「その時」が来るまでじっと耐えるワケですね。あーめんどくさい。

少数派ってのは実はクセ者。対象が少ない分、イニシアチブを取りやすい。勿論、やりようによっては、ですけどね。洗脳してイエスマンを周囲に配置することも容易い。それに失敗したら抜ければ良いし（笑）

冗談はともかく、多数派の批判をしても、組織の本質的には多数派となら変わらないヒエラルヒーを受容している時点で一匹狼ではない、です。それが無自覚だとしても。いやもちろん、独りじゃないんで一匹じゃないんですけどね。

本当に一匹になってしまった時の孤独は自分でも後に味わいます。手を差し伸べてくれた人も含め、周囲の全員が敵に見える、情けない人間でした。ブザマという言葉がこれほど相応しい時代はなかったと振り返ります。一匹でしたが孤高の狼ではありませんでした。ちょっとしたことで「狼」扱えたんで、ある意味オオカミだったのかもしれませんが。

そんな江成が目指した組織の在り方。それが現在のナリーズです。

www.naries.net

詳細はウェブに書いてありますのでここでは省略しますが、「全員がそれぞれの人生の中で主役」という「現代人の妄想」を満たす場であることは間違いないと思います。人生に意味なんか無いんだって話をしちゃうと身も蓋も無いですが、食べもしない魚釣りなんぞにうつつを抜かすアホな人々の慰め合いの場というか。みんなが同じである必要は無いので、お手手つないでゴールインを目指している訳じゃないんですが、「一位もビリもただの人」に込められたメッセージは、それぞれの違いを受け止め、個を尊重しましょう、ということです。平等とか公平じゃないんですよ。ひとりひとり違うんです。人間の尊厳レベルでは対等ですから、釣りに会えば、ちょっとひとりより釣ったくらいでチョーシこいてんじゃねーゾ！ってことになりますが、そんなレベルは超越して、もっと広い範囲で前提とすべきメッセージですね。だってみんな、釣りで釣りの話だけをしてるワケじゃないですもん。

ナリーズは仲良し集団か？

周囲を自分色に染めようと必死になれる、我が世の春も謳歌した。組織を追われ一匹狼を気取りながら、ドン底で拗ねもした。そのどちらにも必要なのは他者の存在で、カッコつけたいのはヤマヤマなんだけど「人間はひとりでは生きられない」現実を認識したオトナ達が、巡り巡ってナリーズに集まっているように思います。「情けは他人のためならず」を理解するからこそ、真剣に他人と向き合える。他人のみならず、自分の「我」も否定しないからこそ嘘くさくない。現在のナリーズには、そういう居心地の良さがあるのかもしれませんが。なので、クラブのロゴ入りグッズを欲する人は、仲良しこよし意識ではなく、愛会精神なんじゃないかなあと思うんですね。個人競技でも背負う日の丸、愛国心、みたいな。違うか（笑）

さっき慰め合って書いたんで誤解されそうですが、無条件の馴れ合いとは違います。さっきのは、哲学的な意味での全人類的な絶望を前にして話です。たぶん、会員じゃない方は、ここに書かれていることが信じられないと思いますが、役員会を見れば解ります。毎度毎度まとまらない（笑）まー皆さん、流されませんから。頑固です。会員の中には元番長、元暴走族のリーダー、現在社長、サラリーマンでも役員クラスなど、それぞれがリーダーシップを発揮して、自分のクラブを立ち上げたって不思議じゃないような濃い人達ばかりですからね。

現在のナリーズは江成の目指したスタイルになってはいますが、それは会員それぞれが目指した結果です。「江成一派」にはなっていないんですよ。楽しそうに（うるさく）釣りをする光景が目立ちますが、実はバラバラなんです。良い意味でね。組織である以上役員はおり、成り行き上で会長である自分には会長権限というものがありますが、それを発動したら異議申し立てをされた健全な組織です。原稿賞ね（笑）最終的に多数決で承認されてますが、否決されたら江成の立場が無かったですね（笑）そこで江成が拗ねたらクラブの存続に関わる問題だってんで、一部の役員はハラハラしていたようですが、それもまた運命。時にはぶつかるのも大事、なんて陳腐な予定調和じゃなくて、本当にケンカ別れしちゃうくらいで良いと思ってますしね。究極を言えば、ですよ。仲直りする前提のケンカなんてケンカじゃないって意味です。

クラブ名こそ自分の名前ですが、ナリーズはすでにパブリックな存在だと認識しています。組織の体をなさなくなるから「親分」の言うことは黙って聞く、なんてのは時代遅れです。そこが重要なら、否決以前に会長が決めたことを議題にする段階でナリーズは崩壊ですよ。洗脳は完全に（健全に）失敗しているのです。いえ、そんなことしてません（笑）

ただ、公衆の面前で問題発言をした会員は、会長権限で除名としましたが、コレを役員から異議申し立てされてたら、ちょっと考えちゃったかも（笑）

会員間のケンカならほっとくんですけどね。「ナリーズは何でもアリ」でいたかったし、大切な仲間でしたが、やむを得ませんでした。